

下関市立大学広報

体育館改築決まる

2007年春に完成予定

築後32年が経ち、老朽化の著しい体育館の改築が決定した。本学長年の懸案の一つが解決される。実施設計は、全国の公立大学へのアンケート調査を基に行った市建築課との共同実地踏査をふまえて、「下関市立大学体育館設計プロポーザル」(2003年開催)によって選定された設計業者、大学、建築課の三者による合同会議、学生団体との意見交換、教授会報告を経て決定した。現体育館とその横のテニスコートに、事業費約10.5億円をかけ2007年春の完成を目指す。

施設は、バスケットボール3面相当の全国でも有数の面積を持つメインアリーナとロビー、サブアリーナ兼武道場、トレーニング室、会議・講義室を統合する「スポーツラウンジ」を一体化するよう計画され、正課授業、学生サークル活動を主に、入学・卒業式、学園祭やその他の大学行事、イベントに対応する機能を有する。また、体育館と厚生会館、学友会館は屋外回廊(ピロティ)で結ばれ、学内の新たな歩行者ネットワークの形成を計画している。

体育館の改築は、ハード面でまさしく21世紀における本学の新たな顔の一つとなり、ソフト面でも学生のスポーツ活動・健康教育の改善、教職員の福利厚生の進展、さらには今後積極的に展開されるであろう「健康」や「コミュニティ」などをキーワードとする地域と大学の交流促進、スポーツを通じた国際交流に重要な役割を果たすであろう。(中島 健)

オープンキャンパス 2005 400名を超える参加者



7月30日(土)、オープンキャンパス2005が開催された。去年のように台風の接近を心配することはなかったが、朝から豪雨に見舞われ、あいにくの出だしとなったが、全体説明が終わる頃には、雨も上がり、無事にすべてのスケジュールを終えることができた。

当日は、高校生、教員、父母を合わせて338名が参加した(去年は308名)ほか、同時に行われた大学院の入試説明・院生研究発表に24名、産業文化研究所と大学院学会の共催による講演会「企業の倫理と責任」に47名の市民などの参加があった。合わせて409名であり、これまでで最も多くの参加者を得た。山口県と福岡県からの参加者が大半



であったが(山口県231人、福岡県54人)、鹿児島、沖縄、神奈川など遠方からの参加者もいた。

アンケートにみるかぎり、全体のメニューは概ね好評であり、回答を寄せた100人のうち「良かった」が69人、「普通」が31人であった。また、受験希望の有無に関する質問には、回答者102人のうち、66人が「ある」と答えていた。ただ、午前中の雨のせいで、グラウンドが使えなかったため、学生たちのクラブ活動をみてもらえなかったことが残念であった。また在学生との交流の仕方についても、工夫の余地があると感じた。

クラブハウス完成

施設の老朽化に加えて昨年の台風被害を受けたクラブハウスを撤去し、正門横人工芝テニスコート脇に災害復旧費約3200万円を投入し建設していた新クラブハウスが、6月に完成した。6つの部室を有するA棟(約195㎡)と2つの部室と倉庫を備えたB棟(約140㎡)、この他に足洗い・洗濯機置き場が完成し、準硬式野球、軟式野球、サッカー、ラグビー、陸上、硬式テニス、軟式テニス、応援団とバスケットボールとバレーボールを中心とする女性チームメンバーが入室した。



第1回朝鮮語弁論大会を終えて

実行委員長 諏訪 絵美(国際商学科3年)



2005年6月29日(水)、記念すべき第1回下関市立大学朝鮮語弁論大会が開催されました。朗読の部・暗唱の部・弁論の部に分け、朝鮮語を始めて間もない人から、流暢な人まで幅広く参加できるようにしました。さらに、本校の学生だけでなく、他大学学生、高校生、中学生、一般市民の方にも参加を募ったところ、中学生から80歳の方まで34名の方にご参加いただきました。

下関市立大学で朝鮮語の授業が行われるようになってから、十数年が経ちますが、このような弁論大会は初めての試みであり、すべてが手探りのなかでスタートしました。不安と期待のなか、先生方と一緒に実行委員一同、準備に取り組んできました。第1回目ということで至らない点もあったとは思いますが、無事に終えることができて嬉しく、そして誇らしく思っています。

この朝鮮語弁論大会を通して、朝鮮語に対する学習意欲もさらに高まり、様々な人と交流することができ、とても有意義な一日を終えることができました。

この朝鮮語弁論大会を来年以降も盛大に盛り上げていこうと思います。

シンポジウム「企業の倫理と責任」



7月30日午後、下関市立大学産業文化研究所と下関市立大学大学院学会との共催でシンポジウム「企業の倫理と責任」が開催された。企画の趣旨は、企業の社会的責任(CSR:Corporate Social Responsibility)への関心の高まりに大学として応えようというものであった。

まず、交通論の第一人者、安部誠治教授(関西大学国際交流センター所長)が「JR 福知山線事故が問いかけるもの」と題する基調講演をされた。ここでは事故の背景についてCSRの議論を踏まえた分析が展開された。つぎに、ディスカッションに入った。パネリストとして地元学外からは浜崎大輔弁護士(企業法務専門)、本学からは森幸弘教授、溝渕彰講師が参加した。ここでは企業活動にあたって

英語スピーチコンテストを主催して

上原 亮祐(国際商学科3年)

6月25日(土)、ESS主催の第36回下関市立大学スピーチコンテストが行われた。ESSの伝統行事で、毎年1回本学で開催される。

内容は2部構成で、前半は事前に作成したスピーチをそれぞれ7分間で暗唱する。後半はその場で与えられたテーマについて、15分で作成したスピーチを4分間で暗唱する。今回は本学から窪田恵美さんが出場したほか、北九大、広島大、立命館大など11大学から12名が出場した。それぞれのスピーチはよく準備されており、メモライズも完璧で、発音もよく、すばらしい内容だった。厳正な審査の結果、広島大の岩田さんが優勝した。

コンテスト終了後には、レセプションが行われた。出場者の話を聞くと、「とても緊張したが練習した甲斐があった」、「楽しかった」と、聞いていて清々しい思いがした。

今回の主催のチーフは、3年の内田有美さんであった。彼女は、この大役を人一倍の頑張りでこなし、大会を成功に導いたが、「大変だったけど、皆で協力して、最高の大会にできた」と感想を述べていた。全員で協力して、来年もその先も、後輩達には頑張ってもらいたい。



の利害関係人(stakeholders)への責任が法律学、経営学などの観点からも再検討された。

聴衆は50名程度であったが、半数以上は一般市民の方々であった。フロアから意見が活発に出され、地域貢献としてたいへん有意義なシンポジウムとなった。産業文化研究所はオープンキャンパスのシンポジウムを恒例行事としていく方針である。

(鈴木陽一)

内山浩道氏、本学名誉教授に

10年の在職の後に、2004年度で退職された内山浩道氏(現在、駒沢短期大学英文科教授)に、本学名誉教授の称号を授与することになり、7月7日(木)、教授会に先立って、授与式が行われた。内山氏は、在職中、おもに留



学生のための日本語教育に尽力されたほか、豊富な国際経験を活かして本学の国際交流に多大な貢献をされた。

2006年度大学院入試

9月17日(土)、2006年度大学院入試が行われた。一般の受験者は、経済社会システム専攻が2人、国際ビジネスコミュニケーション専攻が5人であったが、ほかに派遣社会人特別選抜枠として韓国から慶尚南道の水産資源研究所の職員1人、交流協定校特別選抜枠として青島大学から1名の志願があった。

一般受験者は、午前に、社会人と留学生が小論文と論述、その他が外国語と論述の試験を受け、午後に全員が面接試験を受けた。派遣社会人は面接、交流協定校からの志願者は書類選考のみである。一般受験者7人のうち6人と特別選抜の2人の計8人が合格した。一般受験者の合格者6人のうち社会人、留学生はともに1人、また、本学学生は2人であった。来年3月に二次募集(募集定員は若干名)が行われる。

大学院調査研究報告会

本年度より、オープンキャンパス時に実施していた修士論文中間発表会をリニューアルして、「大学院調査研究報告会」を開催することになった。報告は以下の2件で、前者は大分県玖珠町と久重町の合併不成立、長野県山口村の越境合併の事例をとりあげ、それぞれの背景を探究したもので、後者は環黄海に利害関係をもつ中国・韓国・日本相互の貿易・投資関係を詳細なデータを駆使して説明し、「局地経済圏」の可能性を展望しようとした。

1) 周辺地域における市町村合併—大分県・長野県を事例として—

2) 「環黄海経済圏」の現状と展望

大学院入試説明会に出席していた受験希望者もまじえ、院生・教員など、のべ26名が出席して質疑応答がなされた。教員からの率直な質問・意見は、たいへん刺激的だったという感想も寄せられた。(木村健二・研究科長)

2006年度入試の概要

◆推薦入学

- 全国推薦
2005年11月19日(土) 小論文
- 地域推薦
2005年11月19日(土) 小論文

◆特別選抜

- 帰国子女特別選抜
2005年11月19日(土) 小論文(日本語による)/面接

○社会人特別選抜

2005年11月19日(土) 小論文/面接

○中国引揚者等子女特別選抜

2006年1月28日(土) 小論文(日本語による)/面接

○外国人留学生

2006年1月28日(土) 小論文(日本語による)/面接

◆一般選抜

- 前期日程 2006年2月25日(土) 下関・大阪
前期日程試験の実施教科・科目及び配点

学科	大学入試センター試験	個別学力検査	配点合計
経済学科	・国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語から2科目(2教科)採用	小論文	800点
	【科目の採用の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算する。 1. 最も得点の高い科目をさらに300点満点に換算し採用する。 2. 次に得点の高い科目を200点満点のまま採用する。 300点+200点	300点	
国際商学科	・外国語(必須) ・国語、地理歴史、公民、数学、理科から1科目採用	小論文	800点
	【科目の採用の仕方と配点】 1. 外国語を300点満点に換算し採用する。 2. 外国語以外のすべての科目を200点満点に換算し、最も得点の高い科目を採用する。 300点(外国語)+200点	300点	

○公立大学中期日程

2006年3月8日(水) 下関・大阪・福岡
公立大学中期日程試験の実施教科・科目及び配点

学科	大学入試センター試験	個別学力検査	配点合計
経済学科	・国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語から3科目(3教科)採用	外国語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング)	800点
	【科目の採用の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算し、得点の高い順に3科目(3教科)を採用する。 200点×3	200点	
国際商学科	・国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語から3科目(3教科)採用 ※ただし、この3教科の中に数学か外国語のどちらかを含むこと。	外国語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング)	800点
	【科目の採用の仕方と配点】 ・すべての科目を200点満点に換算する。 1. 数学か外国語のうち得点の高い方の科目を採用する。 2. 1. で採用した科目以外の科目のうち得点の高い順に2科目(2教科)を採用する。 200点×3	200点	

※前期日程、公立大学中期日程とも外国語で英語を選択した場合はリスニングも含む。地理歴史と公民からは1科目のみ。

◆編入学 2005年11月19日(土) 小論文/面接

準硬式野球部 全国大会出場 惜しくも2回戦敗退



準硬式野球部は昨年に続いて、中国地区大会を制し、全国大会への出場を果たした。地区大会は4勝1分で東亜大学と同率首位であったが、決定戦に勝利し、8月20日から岡山県倉敷市のマスカットスタジアムで行われた全国大会に進んだ。

全国大会では、1回戦で中央大学を4対1で破り、2回戦に進んだが、福岡大学に10対11でサヨナラ負けを喫し、惜しくもベスト8進出を逃した。

夏の厳しい日差しのなか、日々の練習に耐えて力をつけたチームであったが、全国大会での善戦は賞賛に値する。

1回戦

下関市立大学 1 0 0 0 0 0 0 0 3 | 4 (下) 永田一田邨

中央大学 0 0 0 0 0 0 1 0 0 | 1

2回戦

下関市立大学 0 0 0 0 5 0 0 2 3 | 10

福岡大学 1 1 5 0 0 2 2 1 2 | 11

(下) 永田、福本、高橋、森山一田邨、柴木
二塁打：松村、田邨、駒走

日中学生友好軟式野球大会に参加して

月足 聡 (経済学科4年)

8月21～27日の7日間、中国の北京市で第10回日中学生友好軟式野球大会が開催されました。第10回の記念大会ということで、北京市体育総会名誉主席の魏明氏のほか各方面の支援を頂き盛大なものとなりました。日本からは選考基準をクリアした選手が選ばれ、西日本地区2名、中部地区3名、首都地区7名からなる全日本選抜チームと、東都学生軟式野球連盟選抜チームの2チームが参加し、中国からは北京工業大学などの4チームが参加して、リーグ戦が行われました。私は、西日本地区の連盟委員長、全日本の連盟の幹事長を務めていたこともあり、全日本選抜チームの主将を務めました。

試合結果は、全日本選抜チームが4勝1分け、東都選抜チームが2勝3敗であり、参加したチームの中で1番の成績を収めることができました。私個人としても、投手として5試合のうち3分の1を投げ、自責点ゼロという成績を残すことができ、また主将として特別賞をいただきました。

7日間のうち、半分は試合、半分は観光・交流会という日程であったため、短期間ではありましたが中国の人や文化に触れる機会が多くありました。習慣や考え方の違いなどを実際に肌で感じることで、多くのことを学び、貴重な体験をすることができました。



最後に、大会に参加するにあたり、ご尽力下さいました関係各位に対し、心からお礼を申し上げます。

前列 左から2人目が月足君

2005年度(春季)体育系サークル成績

サークル名	大会名	種目	成績
弓道	春季山口県内リーグ	男子団体	1位
弓道	春季山口県内リーグ	男子個人	2位 大橋 匠
弓道	春季山口県内リーグ	男子個人	3位 岡本 毅
準硬式野球	春季リーグ戦		1位
準硬式野球	春季リーグ戦	最優秀選手賞	田邨 謙典
準硬式野球	春季リーグ戦	最優秀投手賞	永田 佳久
準硬式野球	第52回春季関北インカレ		2位
軟式野球	三大学交流戦		1位
剣道	第52回春季関北インカレ	男子団体	1位
剣道	第52回春季関北インカレ	男子個人	3位 松森 周作
剣道	下関地区職域大会	女子個人	1位 小川 敦子
柔道	亀山八幡宮奉納柔道大会	団体	3位
柔道	第52回春季関北インカレ	団体	3位
硬式庭球	第52回春季関北インカレ	男子団体	1位
硬式庭球	第52回春季関北インカレ	男子個人	1位 松永 貴成
硬式庭球	第52回春季関北インカレ	女子個人	3位 藤津 香澄
バドミントン	山口県学生	女子団体	2位
バドミントン	山口県学生	個人	1位 高橋 慶子
バドミントン	第52回春季関北インカレ	女子団体	1位
バドミントン	第52回春季関北インカレ	個人	1位 高橋 慶子

バドミントン	第52回春季関北インカレ	個人	3位	松本 美穂
バドミントン	第52回春季関北インカレ	ダブルス	1位	高橋・池田
バドミントン	中国・四国大会	個人	3位	高橋 慶子
バドミントン	中国・四国大会	ダブルス	3位	高橋・松本
バドミントン	中国大会	個人	2位	高橋 慶子
バドミントン	中国大会	ダブルス	2位	高橋・松本
バスケットボール	山口県学生春季大会2部		2位	
バスケットボール	第52回春季関北インカレ		1位	
バスケットボール	第37回山口県一般春季2部		2位	
陸上競技	下関市陸上競技選手権	男子200m	1位	原田 博史
陸上競技	第52回春季関北インカレ	男子200m	3位	原田 博史
陸上競技	第52回春季関北インカレ	走り幅跳び	1位	原田 博史
陸上競技	第52回春季関北インカレ	女子400m	3位	岡本 毅
陸上競技	第52回春季関北インカレ	男子砲丸投げ	3位	平元 良英
陸上競技	第52回春季関北インカレ	男子円盤投げ	3位	鈴木 出
卓球	第52回春季関北インカレ	男子団体	2位	
卓球	第52回春季関北インカレ	女子団体	3位	
少林寺拳法	中四国学生少林寺拳法大会	単独演舞	2位	石橋 圭一
少林寺拳法	中四国学生少林寺拳法大会	男子組演舞	1位	平田・高橋
少林寺拳法	中四国学生少林寺拳法大会	団体演舞段外	1位	
少林寺拳法	山口県大会	男子組演舞初段	2位	田中・窪園
少林寺拳法	山口県大会	男子組演舞段外	2位	平塚・岡田
少林寺拳法	山口県大会	男子組演舞段外	3位	藤川・高橋

忘れ難き友 忘れ難き使命

—中国語弁論大会で受賞して—

上坂みゆき(国際商学科4年)

私は西日本地区と九州地区の中国語弁論大会に出場し、それぞれの大会で準優勝と3位の表彰を受けました。今回は弁論の他に400題の中国に関する問題と芸の総合的な能力が要求されましたが、成し遂げた時に得られる能力向上と自信や、世界が身近なものになると考えると、やる気が満ちあふれてきました。先生のご指導のもと、毎日、完璧な発音練習と聴衆の心に届くスピーチを目指しました。また400題の問題に悪戦苦闘しながらも自分なりに工夫した方法で覚えたことで、ますます中国の魅力を感じるようになりました。大会当日は、皆が応援に駆けつけて下さり、その声援で、楽しみながら私にとって一番よい弁論をすることができました。弁論が終了した途端、感動で一杯となりました。「喜びをもって仕事をし、成し遂げた仕事を喜べる者は幸福である」(ゲーテ)という言葉が全身を走りました。弁論を通じて留学生、後輩たちの間で日中友好の心がさらに膨らんできたことに、とても喜びを感じています。

2005年度セクハラ研修会開催

去る7月7日(木)、本学A棟233教室にて学生向けセクシュアルハラスメント研修会が開催された。講師は心理カウンセラーの市場恵子氏、演題「あなたは“ノー”をいえますか?—暴力の被害者にも加害者にもならないために」。若い人たちが少しでもセクハラ問題を理解できるよう、歌あり寸劇(講師の補助の方5名と学生によるロール・プレイ)ありの多彩な内容で、例年とは違った趣の会となった。参加者は30名程度と少なかったものの、本年は大学院生の初めての参加をみる事ができた。

空手道部

日 高 慎 吾
(国際商学科3年)

サークル紹介

空手部は、現在4年生2名、3年生2名、2年生4名、1年生2名(マネージャー1名)の計10名で活動しています。練習は週4回、2時間行っています。練習の内容は、突き、蹴り、受けといった基本の練習から始まります。30分程度基本を行い、次に、突き、蹴り、受けを、移動しながら行う移動基本を行います。移動基本を終えると型の練習をします。型は空手に必要な重要な動作が集められたもので、現在は平安二段や平安三段という名の型の練習をしています。学園祭の演武会では、この型を含め、型の披露をしたいと思っています。また試合が近いときは、ミット打ちや組み手という実践形式の練習を重点的に行っています。また、年間の行事として毎年、冬に武道系サークルの参加する寒稽古に参加しています。ほかに、3年に一度、100キロ歩行を行います。



このように、普段の練習以外の行事を通して精神面の強化も行っています。

インターンシップに36名が参加

今年度は、夏休みと秋休みに分けてインターンシップを実施した。本学のインターンシップは、定期試験との関係で日程的に実施時期が難しい。このような条件下でも、36名の学生が参加し、派遣先は市役所および16の事業体となった。学生のニーズに合わせた企業開拓を行った結果、派遣先が昨年より4社増加した。希望者のいない事業体もあったが、下関グランドホテル・日本旅行・下関市社会福祉協議会・センコー・日本無線電機サービス社・シーモール商事が、初めて受け入れ先となった。手作りインターンシップも4年目を向かえ、量的拡大ではなく、内容の充実を一層推し進める時期にきている。(櫻木晋一)



インターンシップ体験記

岩崎 雄介(経済学科3年)

3年生になり、就職活動を考える時期になった。しかし、なかなか実感がわかずにいた。そこで、自分自身が思い浮かべている社会の仕事と現実がどの程度異なっているのかを知ろうと考え、今回のインターンシップ(下関商工会議所)に参加した。

私は、インターンシップ中に通行量調査やアンケート調査などの実務を体験することができた。その中で、正確な値を取ることに難しさや容易にアンケートに応じてもらえないなど実務の厳しさを感じた。さらに、観光客の方に道を聞かれた際、上手く道案内ができなかった。そのため、単に調査だけではなく、下調べの必要性も学んだ。また、多くの方から体験談や社会人として必要なことについて聞くことができた。その中で「人とのコミュニケーションの大切さ」と言う言葉が最も印象に残った。

今回のインターンシップを通じて私は、「人とのコミュニケーションの大切さ」や実務の一部を体感することができた。この経験を活かして、残りの学生生活を送りたい。インターンシップは、単なる就労体験ではない。「自分の足りないもの」を知ることや「仕事を通しての人とのコミュニケーション」を学ぶ数少ない機会でもある。多くの学生に積極的に参加して欲しいと思う。

日中友好の“金の橋”を渡る 外国研修

北京大学での短期留学に参加して

村川由起子(国際商学科2年)

アツい夏 アメリカ

勘米良康隆(国際商学科3年)



北京大学学生との交流会

私は初めて短期留学に参加しました。北京大学の先生方による中国語での授業の楽しさや、抗日記念館での献花式の荘厳さ、万里の長城の壮大さ、故宮博物館の偉大さ、そして中国の人々との交流は、私にとってはとても刺激的で、毎日のように新しい発見や感動がありました。そして忘れられない、心に強く残ったことがありました。それは北京大学学生との交流会の時です。「日本は好きですか」と聞くと、「以前はあまり好きではありませんでした。でも、今日あなた達と交流して、私は日本のことが心から好きになりました。有り難う」と嬉しそうに答えてくれました。この言葉を聞いて私はとても安心しました。先入観ではなく、お互いの思いを伝えること、自分の目で見て、自分の心で感じることの大切さを改めて実感しました。

留学を通して、私は多くのことを考え、感じ、学ぶことができました。今の中国と日本の現状を目の当たりにし、自分ができることは何なのか、自分に足りないものは何なのか、常に考えていたように思います。そして「語学を通して自己を磨き、世界の平和のための人材になりたい」と、今まで以上に強く決意しました。

短期留学と一緒に参加したメンバー、私たちの世話をし下された先輩方、そして何より、毎日私たちの反省文に言葉を書いて下さり、私たちのことを考え、尽力して下さった山田先生に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

韓国研修に参加して

折山 智子(国際商学科2年)

私はこの度、夏季韓国研修に行ってきました。私たちが行った東義大学は、釜山の中心地に近く、とても大きな大学でした。校内にはバスが通っており、私たちの移動手段はすべてバスでした。校内が広く、急な坂が多いため、バスがないときは本当に大変でした。

食事は夕食以外すべて、校内にある食堂で食べました。もちろん毎食キムチが出てきました。朝食からキムチは、抵抗がありましたが、だんだんと慣れてきて、おいしく食事をとることができました。

授業は毎日午前中に約3時間行い、その後チューターさんと韓国語の勉強をして、市内観光などをして過ごしました。習った韓国語を使える時間が多かったため、韓国語を学ぶには大変良い環境だったと思います。チューターさんとは日本語、韓国語を混じえながらコミュニケーションをとりました。どのチューターさんも本当に親切で明るい人



この夏、僕は外国研修で初めてアメリカの地を踏むことになった。Pleasant Hillというサンフランシスコから電車で約1時間のところで1ヶ月を過ごし、そこでいくつかの貴重な体験をした。

まずアメリカに着いて最初に感じたことは、アメリカの人々はfriendlyだということである。彼らは、見知らぬ僕たちにも道ばたですれ違った時や店で買い物をする時などにも、気軽に挨拶を交わしたり、話しかけてくれた。初めは、その行動に戸惑って、うまく受け答えができなかったが、徐々に慣れてくるにしたがって受け答えもうまくできるようになり、このアメリカの習慣は本当にすばらしいと思えるようになった。次に、月曜から金曜まで毎日通ったIECという英語を学ぶために様々な国の生徒が在籍している学校で、他国の生徒と英語を通してコミュニケーションをとることによって、日本人以外の友達ができただけでなく、国が違っても名前を覚えることは異国の人間同士が仲良くなるには一番の近道であるし、欠かせないことだということをおる韓国人の女の子が教えてくれた。またある意味、貴重な経験として、電車の中でアジア系男性に日本人の悪口を言われるなどの経験もした。

アメリカに実際に行き、現地で生活することによって、アメリカという国を肌で感じることもできたし、この経験はこれからの僕の人生で大きな意味を持つだろう。



たちばかりですぐに打ち解けることができました。

今回の研修では普通の旅行では経験できない貴重な体験がたくさんでき、参加できたことを大変うれしく思います。この研修をサポートして下さった先生方、東義大学の皆さんに感謝したいと思います。ありがとうございました。

学友会新体制発足

学友会は、7月13日(水)に臨時総会を開催し、中央委員会の解散、学友会規約の全面改訂、新執行部の選出を行った。新執行部の役員は以下の通り。

学友会会長 瀬戸亮一・体育会会長(国際商学科4年)
副会長 嶋田和弘・大学祭実行委員長
(経済学科3年)

会計部長 品川裕考・文化会会長(経済学科4年)

執行部は、このほか7名のメンバーによってサポートされる。以上の新体制は暫定的なもので、12月に予定されている次回総会で交代する。

学友会会長に就任して

瀬戸 亮一



初めまして、学友会執行部の会長を務めさせていただくことになりました瀬戸亮一といいます。まず最初にこの組織についてご説明したいと思います。この組織の発足は、中央委員会の解散に伴うものです。体育会・文化会・大学祭実行委員会の代表者各3名と、一般学生2名以内で構成されています。そのなかで会長・副会長・会計部長の三役を各団体から1名ずつ選出しています。今回は体育会会長の私が学友会の会長に就任しましたが、次年度はどの団体から会長が出るかは分かりません。一般学生かもしれません。そのとき、そのときで一番ふさわしいと思われる人が、適した役職に就くというシステムになっています。もちろん学生総会で承認を受けます。

仕事内容としては先ほど申し上げましたように、基本的には中央委員会の仕事を引き継ぐものです。それに加えて、各団体から提案・要望を持ち寄って、それを相互に共有することで各団体間の交流を深めることも目指しています。この学友会執行部が発足して約3ヶ月が経ちましたが、まだまだ手探り状態が続いています。この先どうなっていくかは分かりませんが、後輩達につながる道をつくるために一生懸命頑張っていきたいと思います。

市民ゼミナール開講式



9月3日(土)、市民ゼミナールの開講式が行われた。このゼミナールは、これまでの公開授業や市民大学とは異なっており、少人数による参加形式の連続授業である。市民の生涯学習の新たな機会を提供するものとして、今年度、初めて企画・実施された。

テーマ、講師は以下の通り。ゼミ1：吉津直樹教授「地域を考える—山口県と下関市の経済を中心に」、ゼミ2：木村健二教授「近代の山口県と朝鮮半島との交流」、ゼミ3：米田昇平教授「現代の消費社会を考える—思想史の観点から」。市民の受講者は、ゼミ1が4名、ゼミ2が4名、ゼミ3が6名の計14名である。初めての試みで、PRが十分ではなかったと思われるが、29才から78才まで、職業・職歴も多様な市民が集まった。9月10日より、原則として毎週土曜日、計10回のゼミナールが行われる。

山口県大学図書館協議会の総会を開催

2005年7月29日(金)、本学学術センター3階会議室において、第9回山口県大学図書館協議会の総会が開催された。山口県内の大学、短期大学、高等専門学校、全14会員のうち、11校17名が参加した。今年度は、本学図書館が幹事館と総会当番館を引き受けている。

協議では、DVD等の著作権への対応、大学図書館と地域の公共図書館の連携、電子ジャーナルを初めとする各種学生向け利用案内の共同作成などについて、各大学の現状報告と意見交換が行われた。(図書館長 西田雅弘)

同窓会 盛大に「山口・下関の集い」



7月30日夕刻より、シーモールパレスで、下関市立大学同窓会『山口・下関の集い』が、下関市長列席の下、盛大に開催された。200名を超える参加があり、夫婦同伴の方も見られた。この日はまた市大のオープンキャンパス当日

であり、OBの中には昼間、大学内の様々な企画に参加された方も多く、発展する母校に感慨していた。

同窓会では多くの企画が催された(よさこい演舞、関門名産卸売、同窓会御当地地酒競演、平家太鼓演奏、ビンゴゲームなど)。翌31日はゴルフコンペ、関門観光も実施された。この様に実行委員会の今回の集いに賭ける熱意が会場全体に横溢していた。

さて今回の同窓会は、画期的なものであった。参加案内のパンフレットに「集え、母校の地へ」とあった。毎年、全国規模での同窓会が各地持ち回りで開催されていたが、近年、不思議と下関市での開催がなかった。それが今回、新同窓会執行部の選出に伴い、母校の地、下関での開催の運びとなった。多くの出席者の顔には下関開催の喜びに輝いていた。来年、市大は開校50周年を迎える。まさに新たな同級生の交流の胎動を予感させた今年の集いであった。ここから、新しい何かが生まれていく。

閉会間近、会場を揺るがす「青潮ゆたかに」の大合唱は、改めて、我々は下関市大という共同体の成員であるということをしみじみと実感させた。

(川本忠雄)

第22回市民大学

◎実習講座

会 場：下関市立大学

○初級中国語会話

—ほんとうに初体験の中国語—

定 員 20名

日 時 9/21～12/14 (全12回)

水曜日 午後6時30分～8時

講 師 荊 玲 (下関市立大学講師)

○上級英会話

—英語でシャベリ場 市大版2—

定 員 20名

日 時 9/22～12/15 (全12回)

木曜日 午後6時30分～8時

講 師 クリスティ・サバソ (下関市立大学講師)



○中級朝鮮語会話

—はがゆいところを見つめなおそう—

定 員 30名

日 時 9/21～12/14 (全12回)

水曜日 午後6時30分～8時

講 師 李 亮 (下関市立大学講師)

○中級コンピュータ講座

—ビジネスユーザーのために—

定 員 20名

日 時 10/6～12/1 (全8回)

木曜日 午後6時30分～8時

講 師 土屋 敏夫 (下関市立大学助教授)

○ぜい肉トリ新年迎えるケン教室

定 員 30名

日 時 10/6～1/19 (全5回)

木曜日 午前10時30分～12時30分

講 師 小笠原正志 (下関市立大学助教授)

◎連続テーマ講座

テーマ

「新しい市になったのだから……」

—わたしたちは何に、どう取り組んでいるか—

〈5回の講演会と1回のシンポジウム〉

会 場：下関市立大学

平成17年度予算

大学の平成17年度予算は、15億6,806万7千円で前年度比1億7,206万9千円の増額となりました。これは、体育館建設工事が開始されることや電算機室を移設する費用が計上されているためです。

なお、業務別内訳は次表のとおりです。

平成16・17年度業務別予算

(単位：千円)

区 分	平成16年度	平成17年度
一 般 管 理 業 務	1,110,844	983,173
教 員 研 究 業 務	53,561	44,374
教 務 業 務	78,833	54,956
大 学 院 教 務 業 務	9,638	7,617
セ ン タ ー 試 験 業 務	7,736	6,084
学 外 入 試 試 験 業 務	10,874	6,472
厚 生 補 導 業 務	7,310	6,094
留 学 生 支 援 業 務	7,068	6,503
図 書 館 業 務	54,087	45,385
ネットワーク・情報教育業務	38,560	34,081
大学学務事務電算化業務	11,299	9,225
産業文化研究所業務	1,601	1,407
小 計	1,391,411	1,205,371
市 民 大 学 講 座 業 務	1,587	1,696
関 門 地 域 研 究 業 務	3,000	3,000
大学整備推進事業(体育館建設事業)	—	250,000
“(電算機室移転・図書収蔵庫改造)	—	108,000
小 計	4,587	362,696
合 計	1,395,998	1,568,067

第44回馬関祭

日 程 10月28日(金)から31日(月)

テ ー マ 『PartY』

主な企画 28日 ふく鍋

29日 お笑いライブ

30日 ケイタクコンサート

問い合わせ 大学祭実行委員会室 0832-53-0680

教職員異動一覧

新任教職員

職 名・氏 名	前 任	着任年月日
局 次 長 村 上 治 城	社会福祉課	17. 7. 1
局次長補佐 山 田 芳 博	体 育 課	17. 7. 1
厚 生 係 長 國 森 秀 康	下水道管理事務所	17. 7. 1
主 任 三 浦 恭 子	資産税課	17. 7. 1
主 事 葛 輪 美也子	介護保険課	17. 7. 1

昇任教職員

氏 名	職 名	異動年月日
片 岡 俊 勝	主 幹	17. 7. 1
河 本 敏 子	主 査	17. 7. 1
矢 上 誠	主 任	17. 7. 1
岡 田 清 弘	主 任	17. 7. 1

異動教職員

氏 名	異 動 先	昇任年月日
倉 重 隆	総 務 部	17. 7. 1
関 岡 健	情 報 政 策 課	17. 7. 1
瀧 保 明	下 水 道 業 務 課	17. 7. 1
中 澄 千 春	秘 書 課	17. 7. 1
木 谷 友 美	市 民 税 課	17. 7. 1
吉 瀬 行 雄	退 職	17. 8. 24

行事記録(2005年6月～8月)

- 6月 1日(水) 開学記念日
- 16日(木) 第1回就職ガイダンス
- 23日(木) 入試説明会
- 7月 8日(金) 春学期(前期)試験時間割発表
- 16日(土) 夏季集中講義開始
- 19日(火) 春学期(前期)補講(～7/22)
- 23日(土) 夏季休業(～7/31)
- 28日(木) インターンシップ(～9/30)
- 30日(土) オープンキャンパス